

2003名古屋研究大会

多言語社会研究会 年報

2号

目次

A-1 フィリピン・セブアノ語地域の人々の言語観

政治的な動きと人々の意識、ふたつの側面から

松永稔也 5

A-2 ポスト文化大革命期における中国少数民族と外国語教育形成

延辺朝鮮族自治州の「日本語ブーム」の事例から

チェ・ハクソン 24

A-3 モンゴル国における外国語教育の歴史を振り返る

荒井幸康 42

A-4 現代日本における学校英語教育の理念・目的の混乱について

「学習指導要領」と『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想・行動計画」から

岩村博史 49

A-5 スコッツ語の振興策

1980年代以降の取り組みを中心に

米山優子 83

A-6 少数言語としてのフランス語

プリンスエドワード島(カナダ)のアカディア人を事例として

長谷川秀樹 97

A-7 “Hello, bonjour.”

カナダにおける「両公用語による国民への行政サービス」

矢頭典枝 117

B-1 社会言語学における理論と実践

カタルーニャの言語政策形成における社会言語学者の関与を例に

塚原信行 136

B-2 闘争としての学問

「オクシタン語社会言語学」のあり方

佐野直子 155

B-3 ハワイ性の表象としてのフラ

ハワイ語再活性化運動との関わりについて

古川敏明 179

B-4 ウガンダの言語政策と言語使用の状況

首都カンバラにおける事例を中心に

宮崎久美子 199

B-5 「口語」の成立

第一期、第二期国定読本を中心に

ヒョン・ジニ 215

岩村博史 (いわむら・ひろし)

1965年生まれ。

慶應義塾大学文学部社会学科卒。早稲田大学大学院社会科学研究所修士課程(比較文化・比較基層文化論専攻)修了(学術修士)。現在、早稲田大学大学院社会科学研究所博士後期課程(比較文化・比較近代化論専攻)在学中。愛知県立高等学校教諭。

主要業績：修士論文「日本人と英語 日本人の目指すべき英語受容の在り方の一考察」(2002)。

専門：理論社会学、言語社会学、社会言語学。

米山優子 (よねやま・ゆうこ)

1974年生まれ。

現在、一橋大学大学院言語社会研究科博士後期課程在学中。

主要業績：「W.A. クレイギーと The Dictionary of the Older Scottish Tongue」(『CALEDONIA』第32号、日本カレドニア学会、2004年)、『イギリス現代史1900-2000』(共訳、名古屋大学出版会、2004年)。

長谷川秀樹 (はせがわ・ひでき)

1970年生まれ。

博士(国際関係学)、現在、千葉大学助手。

主要業績：『コルシカの形成と変容—共和主義フランスから多元主義ヨーロッパへ』(三元社2002年、第20回ルイヴィトンジャパン賞受賞作品)。

矢頭(掛川) 典枝 (やず(かけがわ) のりえ)

東京外国語大学大学院地域文化研究科博士後期課程単位修得。現在、神田外国語大、関西学院大学非常勤講師。

主要業績：「カナダ：1995年レファレンダム以降のケベック問題」(『外務省調査月報』2000年度、No.1、外務省国際情報局、2000年)、「ケベック伝説の実体計画：語彙の規範化を中心として」(『ふらんぼー』28号、東京外国語大学、2001年)、「ケベック問題」(『カナダを知るための60章』明石書店、2003年)、「カナダにおけるバイリンガル連邦公務員の言語選択」(『言語・地域文化研究』第10号、東京外国語大学大学院、2004年)

塚原信行 (つかはら・のぶゆき)

1970年生まれ。

名古屋大学大学院国際開発研究科国際コミュニケーション専攻博士課程（後期）単位取得退学。現在、愛知県立大学等非常勤講師。

主要業績：「カタルーニャ言語正常化法の言語イデオロギー」（『ロマンス語研究』第33号、日本ロマンス語学会、2000年）、「言語権と言語政策評価——スペインの事例——」（『社会言語学』第1号、「社会言語学」刊行会、2001年）、「La situació sociolingüística de l'anglès al Japó」, NovesSL, Tardor-2002, DGPL-Generalitat de Catalunya.

佐野直子 (さの・なおこ)

1970年生まれ。

一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程単位取得退学。

現在、名古屋市立大学人文社会学部助教授。

主要業績：『少数言語』の新しい在り方——オクシタン語の場合』（『ライブラリ相関社会科学4 言語・国家、そして権力』新世社、1997年）、「フランシタン（francitan）への考察——『ひとつの言語』の余白として」（『一橋論叢』第121巻第2号、1999年）、「«Parla patoés! » - l'attitude linguistique des patoisants face à une étrangère」（*Scène, évolution, sort de la langue et de la littérature d'oc*”, Actes du septième Congrès International de l'Association International d'Etudes Occitanes, 2004年）

古川敏明 (ふるかわ・としあき)

1977年生まれ。

現在、東京大学大学院総合文化研究科博士課程、ハワイ大学マノア校言語学部博士課程在学中。

主要業績：修士論文“Hawai'i Creole English and its Linguistic Publics: An Interpretive Qualitative Study of Attitudes towards Hawai'i Creole English”（ハワイ・クレオール英語と言語の公共性：ハワイ・クレオール英語に対する言語態度の質的研究）（2002年）

宮崎久美子 (みやざき・くみこ)

1976年生まれ。

現在、大阪外国語大学大学院言語社会研究科博士後期課程在学中。中部大学非常勤講師。

主要業績：修士論文「ウガンダの言語状況—首都カンパラにおける言語使用と言語態度—」（2003年）

邢鎮義（ヒョン・ジニ）

1963年生まれ。

一橋大学大学院言語社会研究科博士（学術）。

主要論文：「近代日本における『国語』構築と『口語』の発生」（博士論文、2004年）他。

[2003 名古屋研究大会]

多言語社会研究会 年報2号

発行日

2004年9月30日 初版第1刷発行

発行

多言語社会研究会 事務局

連絡先：三元社気付 多言語社会研究会事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36 鳳明ビル

電話／03-3814-1867 FAX／03-3814-0979

郵便振替／00180-2-119840

印刷

モリモト印刷株式会社

製本

株式会社越後堂製本